科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	国語総合	国語科	4	1	１年生全員

科　目			内　　容	
目標・ねらい			国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	
内容の概要			評論「技術が道徳を代行する時」「水の東西」「生まれ変わる言葉」 小説「城の先にて」「富嶽百景」 説話「検非違使忠明」 古文「検非違使忠明」「絵仏師良秀」「徒然草」「伊勢物語」「平家物語」 漢文「漢文入門」「史伝」「論語」 言語活動「スピーチする」「調査して発表する」「討論する」「意見文を書く」等	
教科書(出版社名)			「国語総合（現代文編・古典編)」 （東京書籍）	副教材等　新国語総合ガイド（便覧)、標準古典文法
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)　その他	
	評価の観点	1	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 1　文章の内容や表現の特色に関心を持ち，自分の意見や考えを広げたり深めたりしているか。 2　言葉に関心を持ち，適切に使用したり，進んで読書したりしているか。 3　辞書や図書館，ウェブ・サイトなどの資料を利用し，疑問点や興味のあることを進んで調べようとしているか。
		2	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 1　さまざまな問題について自分の考えを持ち，筋道を立てて話すことができているか。 2　目的や場面に応じて，効果的に話したり相手の話を聞いて理解したりすることに努めているか。 3　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手のことを考えて話し合うことができているか。
		3	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 1　相手や目的に応じて題材を選び，効果的な表現を考えて書くことができているか。 2　自分の考えを深め，論理的な構成を工夫して文章にまとめることができているか。 3　優れた文章に接して，その内容や表現を自分の文章に役立てることができているか。
		4	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 1　さまざまな文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができているか。 2　文章を読んで構成や表現の特色をとらえ，表現に即した作中人物の心情，情景などを味わえているか。 3　積極的に読書に親しみ，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすることができているか。
		5	知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 1　目的や場に応じた話し方や言葉遣い，文法，漢字・語句を理解して，語彙を豊かにすることができているか。 2　文語文法や訓読法，古典の時代背景や古典常識などを正しく理解することができているか。 3　国語の成り立ちや特質，言語の役割などを正しく理解することができているか。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単元／授業内容 等	主な評価の観点				
					1	2	3	4	5
1学期	中間	4	5	評論「技術が道徳を代行する時」：道徳を技術で置き換えるのではなく、今後も人間の道徳心を涵養し続けるためには、どのように判断・行動すべきかを考える。	○	○		○	○
		5	5	評論「水の東西」：東西文化の相違を水を通して論旨を正確に追いながら分析する。	○	○		○	○
	期末	6	10	古文入門「検非違使忠明」「絵仏師良秀」他：古文に親しみ、おもしろさを学習。朗読を通じて古文リズムを感じ取る。	○	○	○	○	○
		7	10	小説「城の崎にて」：短編小説を読み、現代人にも通じる新しい可能性と人として生きることの意味を学ぶ。	○	○	○	○	○
2学期	中間	9	6	随筆「徒然草」：５つの章段から作者の人間観を通して古文の関心を深める。	○	○	○	○	○
		10	10	歌物語「伊勢物語」：登場人物の心理を状況や行動に即して理解し、歌を読解鑑賞する。	○			○	
	期末		5	軍記「平家物語」：朗読して語り物としての魅力を感じ、生死に直面した人間の世界を通して生き方を学ぶ。	○			○	
		11	10	評論「希望としてのクレオール」「生物の多様性とは何か」「広告の形而上学」：抽象的概念の世界を論じた言語評論を通じて、論理的思考をはぐくむ。また、それぞれの問題の考察を通して、人間とその生きる社会について考える。	○	○	○	○	○
			5	漢文入門：訓点の働きを理解し、故事のおもしろさを把握させる。	○	○	○	○	○
		12	5	詩「小景異情」「自分の感受性くらい」等：ことばの世界のおもしろさを体験させ、自由な想像力を自らを見つめる力を育む。	○	○	○	○	
3学期	学年末	1	10	小説「富嶽百景」：作品を通して太宰治の生い立ちを知るとともに、「矜持」と「鬱屈」の持続性の意味と、太宰の言う「藁一筋の自負」の意味を知ることで、自らの生き方に活かす。		○		○	
		2	10	論語：孔子のいう「学」と「仁」とその実践に関する師弟のことばを深く味わう。	○	○	○	○	○
		3	10	短歌：それぞれの作品を朗読し、情景や作者の心情を思い表現技巧を理解する。	○	○		○	○
			10	言語活動「スピーチする」「調査して発表する」「討論する」「意見文を書く」等：国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力と思考力を伸ばしすことで、言語感覚を磨く。また、進んで表現する姿勢を身に付けるとともに、社会生活に役立つ表現力，理解力と社会生活を充実させる態度を身に付ける。	○	○	○		○
			計 111						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	国語演習 B	国語科	2	3	３年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			日本の言語文化への興味をさらに深め、入試を踏まえた総合的な国語の力を育成する。	
内容の概要			大学・短期大学の過去の入試問題 一般常識程度の漢字の読み書き、四字熟語、ことわざ・慣用句など 文学史（明治時代以降の文学を中心にする）	
教科書(出版社名)			過去の入試問題、一般常識問題	副教材等　入試現代文へのアクセス（河合出版）
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)	
	評価の観点	1	興味関心態度	予習・復習による学習の点検、発表・問題意識、学習の姿勢。
		2	思考・判断	読後の受け止め方と意欲的な発表、人の発言への集中度等により読解力・思考力などを見極める。
		3	技能・表現	発表・相互批判・感想文等の提出物により表現力・語彙力等を評価。
		4	知識・理解	授業中の発表・発言内容・各小テスト及び定期試験による成績等による評価。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単　元　／　授業内容　等	主な評価の観点 1	2	3	4
1学期	中間	4	22	大学・短期大学の過去の入試問題を演習、解説し、反復することによって入試に対応した能力を身につける。	○	○		○
		5	12	一般常識程度の漢字の読み書き、四字熟語、ことわざ・慣用句などの学習を通して、語彙力を深める。	○		○	○
	期末		16	優れた文章を味わい、文学史の知識を習得する。	○	○		○
		6	10	作文・小論文を書くことによって、総合的な国語の知識を育てる一助とする。	○		○	
				『入試現代文へのアクセス』（河合出版）を使用し、問題の系統的な読解方法について学ぶ。	○	○		○
		7						
2学期	中間	9	計 60	（年間を通じて上記の授業内容を循環させる）				
		10						
	期末	11						
		12						
3学期	学年末	1						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	国語演習Ａ	国語科	2	1	１年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			日本の言語文化を大切に、自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくむ国語の力を育成する。	
内容の概要			詩：「Iwasborn」「十五の心」「白牡丹」 随想：「少女たちの「ひろしま」」「自分の時間で読み継ぐ」 小説：「鏡」 文学史　「明治以降の文学を中心に」	
教科書(出版社名)			「国語総合（現代文編・古典編)」（東京書籍）	副教材等　新国語総合ガイド（便覧)、標準古典文法
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)	
	評価の観点	1	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 予習・復習による学習の点検、発表・問題意識、学習の姿勢
		2	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 読後の受け止め方と意欲的な発表、人の発言への集中度等により読解力・思考力などを見極める。
		3	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 発表・相互批判・感想文等の提出物により表現力・語彙力等を評価。
		4	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 発表・相互批判・感想文等の提出物により表現力・語彙力等を評価。
		5	知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 授業中の発表・発言内容・各小テスト及び定期試験による成績等による評価。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単　元　／　授業内容　等	主な評価の観点 1	2	3	4	5
2学期	期末	10	10	詩「Iwasborn」「十五の心」「白牡丹」： 繰り返し朗読することにより、それぞれの作品世界の理解を深め、筆者の個性にふれる。		○	○	○	
		11	12	随想「少女たちの「ひろしま」」「自分の時間で読み継ぐ」： ものを作り出す営みにおける生命の共感を通して自然と人間の出会い、付き合い方の根源にあるものについて考える。	○		○	○	○
		12	12	「逃亡」と自ら語られる生き方がどのようなものであったかを、文章から読み取る。		○		○	
3学期	学年末	1	12	小説「鏡」： 伝統的「紫紺染め」再興にまつわる苦心を通じて、語り手が何を語っていたのか、会話の内容を読み取りながら考察する。	○			○	
		2	16	文学史： 文学史を学習することにより、日本文化の歴史と伝統に対する認識を高め、今日的意義を知る。また、先人達が歩んだ道を自らが学び、自らが考えることで、主体的に生きてゆく力を育む。		○			○
		3	計62						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	現代文Ｂ	国語科	2	2	２年生全員

科　目			内　　容	
目標・ねらい			近代以降のさまざまな文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら表現し、読書を通じて人生を豊かにしようとする態度を育む。	
内容の概要			随想・小説・随筆・評論・詩歌等の教材を中心に幅広い国語力を身につけるための基本を学習する。読解を基本に作品の内容を自ら考え、親しむようにする。	
教科書(出版社名)			探求現代文Ｂ　（桐原書店）	改訂国語頻出問題 1200（いいずな書店）
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)　その他	
	評価の観点	1	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 1　文章の内容や表現の特色に関心を持ち，自分の意見や考えを広げたり深めたりしているか。 2　言葉に関心を持ち，適切に使用したり，進んで読書したりしているか。 3　辞書や図書館，ウェブ・サイトなどの資料を利用し，疑問点や興味のあることを進んで調べようとしているか。
		2	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 1　さまざまな問題について自分の考えを持ち，筋道を立てて話すことができているか。 2　目的や場面に応じて，効果的に話したり相手の話を聞いて理解したりすることに努めているか。 3　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手のことを考えて話し合うことができているか。
		3	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 1　相手や目的に応じて題材を選び，効果的な表現を考えて書くことができているか。 2　自分の考えを深め，論理的な構成を工夫して文章にまとめることができているか。 3　優れた文章に接して，その内容や表現を自分の文章に役立てることができているか。
		4	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 1　さまざまな文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができているか。 2　文章を読んで構成や表現の特色をとらえ，表現に即した作中人物の心情，情景などを味わえているか。 3　積極的に読書に親しみ，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすることができているか。
		5	知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 1　目的や場に応じた話し方や言葉遣い，文法，漢字・語句を理解して，語彙を豊かにすることができているか。 2　文語文法や訓読法，古典の時代背景や古典常識などを正しく理解することができているか。 3　国語の成り立ちや特質，言語の役割などを正しく理解することができているか。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単元／授業内容 等	主な評価の観点				
					1	2	3	4	5
1学期	中間	4	6	随想「成長するということ」「海亀通信」： 学年当初に当たり、言葉との出会いや驚き、生きることの意味を考える。時代を超えた言葉の力を実感し、古典のおもしろさや想像力とは何かについて学ぶ。	○			○	○
		5							
	期末		10	小説「山月記」： 小説の虚構性を通じて、人生の真実や人間の生き方について考える。	○			○	○
		6							
			10	評論「イスラム感覚」「動物の信号と人間の言語」： 論理の展開が引用や具体例を通して進んでいく評論の基本構造を学ぶ。また、本来あったものがない状態で作品として認められたことに芸術性を併せて考える。	○	○	○	○	○
		7							
2学期	中間	9							
			6	詩歌「日々の生活に風穴を開ける」「天景・猫」「骨」等： 詩歌における言葉のはたらきやそれぞれの作品の表現上の特色を理解し、鑑賞力を高める。	○	○	○	○	○
	期末	10							
			10	評論「科学者とは何か」「ミミズはコンピュータを超える」： 評論を論理の展開に沿って読みとり、作者の見解を理解する。	○	○	○	○	○
		11							
			12	小説「靴の話」「濃紺」： 登場人物の感覚や心理を追いながら現代の人間のあり方について考える。	○	○		○	○
			10	評論「「大人になる」ことのあいまい化」「ネットワークとコミュニケーション」： 文章の論理的構造に着目しつつ評論文を読み解く力を身につけるとともに、現実を「表象」する人間の営為について理解を深める。	○	○	○	○	○
		12							
	学年末								
3学期		1	10	小説「こころ」： 人間の持つエゴイズムと近代化された社会に潜む不条理性を学ぶ。	○	○		○	○
		2	5	評論「「である」ことと「する」こと」： 人間を新しい角度からとらえ直し、個々が日々の生活を振り返り、人間存在についての考えを深める。	○	○		○	○
		3	計 79						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	古典Ｂ	国語科	2	2	２年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			総合国語での古典学習を踏まえて、日本語の中に生き続けている文学作品や漢文学習を通じて、言語感覚をより豊かなものとしながら、文学・歴史・思想を学習し、人生の探求への契機とさせる。	
内容の概要			古文；　古今著問聞集、徒然草、枕草子、平家物語 漢文；　史伝、漢詩、思想	
教科書(出版社名)			高等学校　標準古典Ｂ（第一学習社）	副教材等　新国語総合ガイド、標準古典文法、学習課題集
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)　その他	
	評価の観点	1	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 1　文章の内容や表現の特色に関心を持ち，自分の意見や考えを広げたり深めたりしているか。 2　言葉に関心を持ち，適切に使用したり，進んで読書したりしているか。 3　辞書や図書館，ウェブ・サイトなどの資料を利用し，疑問点や興味のあることを進んで調べようとしているか。
		2	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 1　さまざまな問題について自分の考えを持ち，筋道を立てて話すことができているか。 2　目的や場面に応じて，効果的に話したり相手の話を聞いて理解したりすることに努めているか。 3　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手のことを考えて話し合うことができているか。
		3	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 1　相手や目的に応じて題材を選び，効果的な表現を考えて書くことができているか。 2　自分の考えを深め，論理的な構成を工夫して文章にまとめることができているか。 3　優れた文章に接して，その内容や表現を自分の文章に役立てることができているか。
		4	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 1　さまざまな文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができているか。 2　文章を読んで構成や表現の特色をとらえ，表現に即した作中人物の心情，情景などを味わえているか。 3　積極的に読書に親しみ，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすることができているか。
		5	知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 1　目的や場に応じた話し方や言葉遣い，文法，漢字・語句を理解して，語彙を豊かにすることができているか。 2　文語文法や訓読法，古典の時代背景や古典常識などを正しく理解することができているか。 3　国語の成り立ちや特質，言語の役割などを正しく理解することができているか。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単元／授業内容 等	主な評価の観点				
					1	2	3	4	5
1学期	中間	4	8	古今著問聞集「大江山」「平中が事」： 比較的短い説話を読んで、古文に親しみを持ち話のおもしろさを理解。王朝貴族の記録・日記類が第一資料となる。話の構成や展開を把握し、行動や心情を読み味わう。	○	○		○	○
		5							
	期末		10	徒然草「公世の二位のせうとに」「相模守時頼の母は」「吉田と申す馬乗り」： 読解を深めることによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。 文法的理解を深める。 作者の考えの筋道を正確に捉える。「虚言」の種類と作者の考え方とを区別して、理解させる。	○	○	○	○	○
		6							
		7							
2学期	中間	9	10	枕草子「春はあけぼの」「うつくしきもの」「中納言参り給ひて」他： 作者の季節や物事の捉え方を理解。当時の人物の魅力的な関係を理解。作者の考え方、感じ方を発表させる。	○	○	○	○	○
		10							
	期末		12	平家物語「忠度の都落ち」「能登殿の最期」： 登場人物の把握。物語を丁寧に読解するとともに、源氏と平家のものの考え方、感じ方について理解する。	○	○		○	○
		11							
			8	史伝「管鮑之交」「背水之陣」他： 教材の時代背景を理解するとともに、故事成語は由来を知るだけでなく、現在どのように用いられているかを理解する。	○			○	○
		12	10	漢詩「鹿柴」「絶句」「峨眉山月歌」「春夜」「遊山西村」他： 作者の人物像を明らかにし、人生観を学ぶ。 全体の論旨を把握し、考察する。助字の働きを再確認する。	○	○		○	○
3学期	学年末	1							
			10	思想：「孟子」「老子」「荘子」「韓非子」： 中国古典思想の持つ多様性や独自性に触れ、人生観・世界観を豊にする。同時に、日本の漢詩文にも触れ、異文化言語である漢文をかつての我が国の知識人たちは、理解し言語や思想、文学などを生み出す源泉となったことを認識し理解する。	○			○	○
		2							
		3	計 68						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	国語表現	国語科	2	2	２年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			日本の言語文化を中心に、自ら学び自ら考え表現する意欲を喚起して、主体的に言語としての国語の表現力を養う。	
内容の概要			日本語を学ぶ・話すことと聞くこと 要約文・文章の構成・文の整え方・推敲 手紙・記録報告・説明文・論説文・さまざまな文章	
教科書(出版社名)			国語表現（教育出版）	副教材等　国語表現演習ノート
評価について	主な評価法		観察法(行動、(発言)、(発表)、実技)　作品法((ノート)、(プリント)、(レポート)、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査)、(小テスト)、その他)　その他	
	評価の観点	1	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 1　文章の内容や表現の特色に関心を持ち，自分の意見や考えを広げたり深めたりしているか。 2　言葉に関心を持ち，適切に使用したり，進んで読書したりしているか。 3　辞書や図書館，ウェブ・サイトなどの資料を利用し，疑問点や興味のあることを進んで調べようとしているか。
		2	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 1　さまざまな問題について自分の考えを持ち，筋道を立てて話すことができているか。 2　目的や場面に応じて，効果的に話したり相手の話を聞いて理解したりすることに努めているか。 3　課題を解決したり考えを深めたりするために，相手のことを考えて話し合うことができているか。
		3	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 1　相手や目的に応じて題材を選び，効果的な表現を考えて書くことができているか。 2　自分の考えを深め，論理的な構成を工夫して文章にまとめることができているか。 3　優れた文章に接して，その内容や表現を自分の文章に役立てることができているか。
		4	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 1　さまざまな文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができているか。 2　文章を読んで構成や表現の特色をとらえ，表現に即した作中人物の心情，情景などを味わえているか。 3　積極的に読書に親しみ，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすることができているか。
		5	知識・理解	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 1　目的や場に応じた話し方や言葉遣い，文法，漢字・語句を理解して，語彙を豊かにすることができているか。 2　文語文法や訓読法，古典の時代背景や古典常識などを正しく理解することができているか。 3　国語の成り立ちや特質，言語の役割などを正しく理解することができているか。

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単元／授業内容 等	主な評価の観点				
					1	2	3	4	5
1学期	中間	4	8	「日本語を学ぶ」・「話すこと聞くこと」: 自己紹介や１分間スピーチ、ディベートなどを体験学習することで生き生きとした表現法を会得する。	○	○	○	○	
		5							
	期末	6	8	「文の整え方」・「推敲」: 文章を書き上げる時の心得と実際に文章を仕上げる時のよりよい方法を学ぶ。 新聞のコラムや社説をもとに要約文と感想（コメント）を書き出す。課題作成指導。	○		○	○	○
		7							
2学期	中間	9	2	夏季休業中の課題を中心にして文章の構成や吟味の実践	○		○	○	○
	期末	10	6	「手紙」・「記録報告」: 来年の進路先を仮に想定して就職先や推薦入試合格校への礼状を書くことで手紙文の書き方を学ぶ。また、事柄を報告するという設定で報告文を書く。	○		○	○	○
		11	8	「説明文」: 電気製品などの取扱説明書などの文章を題材にして何に留意すると分かりやすい文章になるかを学ぶ。また各自で製品を想定して説明の文を実際に書く。	○		○	○	○
		12							
3学期	学年末	1	2	冬季休業中の課題に取り組む。（地域の名勝などを紹介する文章の作成）	○		○	○	○
		2	10	「論説文」: 論理的に文章を構成する手法を学ぶと同時にどういう文章が説得ある文章になるかを考えていく。演習ノートを中心に実践力をつける作業をする。	○		○	○	○
		3	2	「さまざまな文章」: さまざまな文章に触れることで、その文章の持つ優れた箇所を鑑賞する。	○	○	○	○	○
			計 46						

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	現代文	国語科	2	3	３年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			明治以降の小説・評論・詩歌等さまざまな文章に触れ、日本の言語文化を享受し、個性豊かな人間として生きるための国語力を身につける。	
内容の概要			２年次に引き続き随想・小説・評論・詩歌等を教材として用い、社会人として生活するのに必要不可欠な国語力を身につけさせる。進路に応じてより高度な国語の知識を、自ら考え取り組むことで身につけさせる。	
教科書(出版社名)			探求現代文　改訂版（桐原書店）	副教材等　改訂国語頻出問題 1200（いいずな書店）
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)　その他	
	評価の観点	1	興味関心態度	予習・復習による学習の点検。音読など発表の様子。問題意識を持った授業への接し方。
		2	思考・判断	音読発表を受けてのそれぞれの集中度など。人の発言の受け止め方と読解・思考力などを見極める。
		3	技能・表現	発表・発言の相互批判、感想文等の提出により表現力・語彙力等を評価。
		4	知識・理解	授業中の発表、発言の内容・意欲、小テスト（漢字・語彙等）・定期考査による評価。

＜授業計画＞

学期	考査	月	時数	単　元　／　授業内容　等	主な評価の観点 1	2	3	4
1学期	中間	4	6	評論「アイデンティティーとは」「言葉の〈意味〉と〈表微〉」： 論理的な文章である評論の読解を引き続いてさらに深く学び､訓練するとともに、内容的には「言葉」についてさまざまな面から検討を加え、認識を深める。。	○			○
		5						
	期末		5	小説「檸檬」： 人を人たらしめている根本の問題に､特にきわめて顕著なかたちで突出してくる、〈青春〉という季節に身を置いた人物を主人公とした小説を取り上げ、作品の丁寧な読解と鑑賞によって、人間というものに対する認識や考え方を深める。	○	○	○	○
		6						
		7	12	評論「市民社会化する家族」「クローン人間の脅威」： 社会構造の変化や生命に関わる科学の展開などにより、これまで考えられてきたものとは異なる生のあの方が生まれるようになった。そうした大きな変貌がわれわれに与えるものは何か、われわれはどのような生き方を選ぶべきであるのか、人間のあり方をしっかり考える。	○			○
2学期	中間	9						
		10	5	詩「鮪に鰯」「ふと」「六十二のソネット４１」： 近代詩の作品を学んだのを受け、より新しい時代の現代詩を鑑賞する。詩の創造的営為に気づき、それに対して感動する心を育てる。		○	○	○
	期末	11	12	評論「日本文化私観」「詩人のふるさと」： 文章の構成を読み取ることは、思考力だけでなく、表現力を伸ばすことにも役立つ。書き手の考えやその展開の仕方を理解すると同時に、自分の意見を持つという能動的な学習態度を身につける。	○			○
		12						
3学期	学年末	1	15	小説「舞姫」： 近代文学の古典と位置づけられるすぐれた作品を通して、人間としての生き方、さらに恋愛のあり方などという普遍的な命題について考えを深める。作中人物の境遇や性格、心理を正確に把握できるようにする。	○	○	○	○
			計 55					

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	古典	国語科	2	3	3年選択

科　目			内　　容		
目標・ねらい			総合国語での古典学習を踏まえて、日本語の中に生き続けている文学作品や漢文学習を通じて、言語感覚をより豊かなものとしながら、文学・歴史・思想を学習し、人生の探求への契機とさせる。		
内容の概要			古文；　御伽草子、大鏡、源氏物語、日記 漢文；　逸話、歴史の群像、漢詩、中国の小説		
教科書(出版社名)			高等学校 改訂版 標準古典（第一学習社）	副教材等	新国語総合ガイド、標準古典文法、学習課題集
評価について	主な評価法		観察法(行動、(発言)、(発表)、実技)　作品法((ノート)、プリント、(レポート)、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法((定期考査)、(小テスト)、その他)　その他		
	評価の観点	1	興・関・態	予習・復習による学習の点検、発表・問題意識、学習姿勢	
		2	思考・判断	読後の受け止め方と意欲的な発表、人の発言への集中度等により読解力・思考力などを見極める。	
		3	技能・表現	発表・相互批判・感想文等の提出物により表現力・語彙力等を評価。	
		4	知識・理解	授業中の発表・発言内容・小テスト及び定期試験による成績等による評価。	

＜授業計画＞

学期／考査		月	時数	単　元　／　授業内容　等	主な評価の観点 1	2	3	4
1学期	中間	4	3	御伽草子「浦島太郎」： 昔話として広く知られている古文教材を通して、古文への興味・関心を深める。 比較的長い文章を読んで大意を把握する力を養う。	○	○		○
		5	12	大鏡「延喜の帝」「道隆と福足君」「弓争ひ」「三舟の才」： 「大鏡」の中から、さまざまな政治的な事件や人物にまつわるエピソードを語った話を取り上げ、これらを通じて歴史物語のおもしろさにふれさせる。	○		○	○
	期末	6	12	源氏物語「光る君」「夕顔」「若紫」「明石の君と姫君」: 登場人物について調べ発表。更衣が周囲の人物に恨まれる経緯や帝の寵愛について考える。紫の上の人物像の理解、藤壺を慕う光源氏の心情に注意させる。 重要語句の意味の確認。通訳は一語一語丁寧に押さえて解釈させる。	○	○	○	○
		7						
2学期	中間	9	9	日記「蜻蛉日記」「紫式部日記」「和泉式部日記」: 「源氏物語」に多大な影響を与えた平安時代の女流日記文学の代表的作品として、「蜻蛉日記」の世界にふれさせる。	○		○	○
		10		「源氏物語」の作者としての紫式部をよく理解するために、日記を通して作者の姿を読み取らせる。 作品背景や作者に対する知識を与え、物語的な構成・叙述を含む「和泉式部日記」の特徴を理解させる。				
	期末	11	10	逸話「説苑」「新序」「淮南子」: 読みにくい語句･句法に注意しながら、訓読に慣れる。 話の筋を読み取る力を養う。 それぞれの話に表れている中国人のものの見方・考え方を理解する。	○	○		○
		12						
3学期	学年末	1	12	歴史の群像「孫臏」「馮驩」「項羽と劉邦」: 「史記」を読み、長い文章の漢文に慣れ、訓読上のきまりをより正しく理解する。 「史記」を読み、治乱興亡の世に処する人々の姿に触れ、古代の人々のものの見方・考え方を理解する。 「史記」を読み、中国古代の社会状況や政治思想を知り、自己の歴史観や人生観を養う。	○	○	○	○
			計 58					

科目名	講座名	担当教科	単位数	履修年次	履修系列
国語	国語表現Ⅰ	国語科	2	3	３年選択

科　目			内　　容	
目標・ねらい			日本の言語文化を中心に、自ら学び自ら考え表現する意欲を喚起して、主体的に言語としての国語の表現力を養う。社会人として必要な表現力を身につける。	
内容の概要			日本語を学ぶ・話すことと聞くこと 要約文・文章の構成・文の整え方・推敲 手紙・記録報告・説明文・論説文・さまざまな文章	
教科書(出版社名)			国語表現Ⅰ改訂版（教育出版）	副教材等　国語表現演習ノート
評価について	主な評価法		観察法(行動、発言、発表、実技)　作品法(ノート、プリント、レポート、作品) 自己・相互評価法(評価票)　ペーパーテスト法(定期考査、小テスト、その他)　その他	
評価について	評価の観点	1	興味関心態度	予習・復習による学習の点検、発表・問題意識、学習の姿勢
評価について	評価の観点	2	思考・判断	読後の受けとめ方と意欲的な発表、人の発言への集中度等により読解力・思考力などを見極める。
評価について	評価の観点	3	技能・表現	発表・相互批判・感想文等の提出物により表現力・語彙力等を評価。
評価について	評価の観点	4	知識・理解	授業中の発表・発言内容・各小テスト及び定期試験による成績等による評価。

＜授業計画＞

学期	考査	月	時数	単元／授業内容　等	主な評価の観点 1	2	3	4
1学期	中間	4	4	「日本語を学ぶ」・「話すこと聞くこと」：自己紹介や学校紹介などの原稿を書くことを実践学習することで生き生きとした表現法を会得する。			○	
		5	10	「要約文」・「文章の構成」：実際に文章を書く基本を演習ノートを仕上げる作業を中心にして身につける。		○		
	期末	6	8	「文の整え方」・「推敲」：文章を書き上げる時の心得と実際に文章を仕上げる時のよりよい方法を学ぶ。			○	
		7	2	新聞のコラムや社説をもとに要約文と感想（コメント）を書き出す。課題作成指導	○			○
2学期	中間	9	6	夏季休業中に希望する進路先を仮設定して文章の構成や文章内容の吟味	○		○	
		10	8	「手紙」・「記録報告」：進路先を仮に想定して就職先や推薦入試合格校への礼状を書くことで手紙文の書き方を学ぶ。事柄を報告するという設定で報告文を書く。		○	○	
	期末	11	8	「説明文」：論理的な文章を題材にして何に留意すると分かりやすい文章になるかを学ぶ。また各自で製品を想定して説明の文を実際に書く。		○		○
		12	2	住んでいる地域を人に紹介する文章を考える。	○		○	
3学期	学年末	1	8	「論説文」：論理的に文章を構成する手法を学ぶと同時にどういう文章が説得ある文章になるかを考える。演習ノートを中心に基礎語彙力をつける作業をする。		○	○	
			計56					